

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2001-256156

(P2001-256156A)

(43) 公開日 平成13年9月21日 (2001.9.21)

(51) Int.Cl.⁷
G 0 6 F 13/00
H 0 4 L 12/28
H 0 4 Q 9/00

識別記号
3 5 7
3 0 1

F I
G 0 6 F 13/00
H 0 4 Q 9/00
H 0 4 L 11/00

テマコード(参考)
5 B 0 8 9
5 K 0 3 3
5 K 0 4 8

審査請求 未請求 請求項の数 5 OL (全 11 頁)

(21) 出願番号 特願2000-66213(P2000-66213)

(71) 出願人 000004329

日本ピクター株式会社

神奈川県横浜市神奈川区守屋町3丁目12番地

(22) 出願日 平成12年3月10日 (2000.3.10)

(72) 発明者 新谷垣内 達也

神奈川県横浜市神奈川区守屋町3丁目12番地 日本ピクター株式会社内

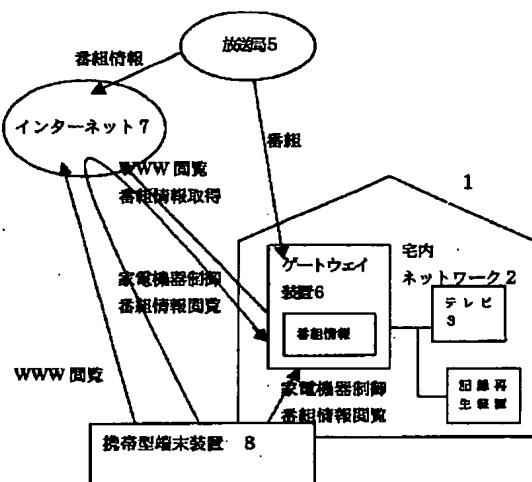
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 制御情報システムおよび制御情報伝送方法

(57) 【要約】

【課題】 宅内においても宅外においても、宅内ネットワークに接続された被制御機器の操作制御を可能と共に、被制御機器やゲートウェイ装置に蓄積された番組情報やコンテンツ情報等を閲覧することが可能として、宅外にあっても宅内にいるときと同じ操作環境を実現して、きわめて操作性がよい制御情報システム及び制御情報伝送方法を提供する。

【解決手段】 被制御機器(テレビ3や記録再生装置4)が接続された宅内ネットワーク2、宅内ネットワーク2とインターネット7とを接続すると共に、外部から供給されるデータを宅内ネットワーク2へ中継出力するゲートウェイ装置6、および宅内では無線データ通信路を経由して、宅外ではインターネット7を経由して、被制御機器を制御するためのHTMLデータを送出し、ゲートウェイ装置6から送出されるHTMLデータを閲覧する携帯型端末装置8から構成した。



【特許請求の範囲】

【請求項1】宅内ネットワークと、

前記宅内ネットワークに接続され、前記宅内ネットワークを介して伝送される制御データに基づいて遠隔制御される被制御機器と、

前記宅内ネットワークとインターネットとを接続する接続部、外部から供給されるデータを前記宅内ネットワークへ中継出力する中継部、および無線データ通信路を経由してデータ通信を行う第1の宅内ネットワーク接続部を少なくとも備えたゲートウェイ装置と、

前記第1の宅内ネットワーク接続部と無線データ通信を行う第2の宅内ネットワーク接続部を有し、前記第1の宅内ネットワーク接続部と前記第2の宅内ネットワーク接続部との間で前記データ通信が確立される状態では前記無線データ通信路を経由して、前記第1の宅内ネットワーク接続部と前記第2の宅内ネットワーク接続部との間で前記データ通信が確立されない状態では前記インターネットを経由して、前記被制御機器を制御するための制御データを送出する制御データ送出機能および前記ゲートウェイ装置より送出されるH T M L データを閲覧する閲覧機能を有する携帯型端末装置とから構成されたことを特徴とする制御情報システム。

【請求項2】前記ゲートウェイ装置は外部より提供される番組情報を蓄積する手段を有し、前記携帯型端末装置は前記宅内ネットワークを経由して、あるいは前記インターネットを経由して前記蓄積手段に蓄積された番組情報を閲覧し、前記被制御機器を前記制御データで制御することを特徴とする請求項1に記載の制御情報システム。

【請求項3】前記携帯型端末装置は無線通信により近傍のゲートウェイ装置の存在を監視する機能を有し、前記携帯型端末装置が正式ユーザとして登録されていない前記ゲートウェイ装置への接続を要求した場合、前記ゲートウェイ装置は前記携帯型端末装置を限定されたサービスのみ実行可能なゲストとして宅内ネットワークへの接続を許可することを特徴とする請求項1に記載の制御情報システム。

【請求項4】前記被制御機器は動作制御のための制御コードを送出するWWWサーバ機能を搭載し、前記携帯型端末装置は前記WWWサーバ機能から受け取った前記制御コードに基づいて被制御機器を制御するための制御データを送出する制御データ送出機能を有することを特徴とする請求項1に記載の制御情報システム。

【請求項5】宅内ネットワークを介して相互接続された被制御機器及びゲートウェイ装置と携帯型端末装置との間での制御情報伝送方法であって、前記ゲートウェイ装置と前記携帯型端末装置との間で前記データ通信が確立される状態では無線データ通信路を経由して、前記ゲートウェイ装置と前記携帯型端末装

置との間で前記データ通信が確立されない位置ではインターネットを経由して、前記被制御機器を制御するための制御データを送出すると共に、前記ゲートウェイ装置より送出されるH T M L データを閲覧することを特徴とする制御情報伝送方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、宅内ネットワークに接続された家電機器等の被制御機器をゲートウェイ装置経由にて遠隔操作可能な携帯型端末装置にて、ゲートウェイ装置に蓄積されたコンテンツ情報を閲覧することができる制御情報システム及び制御情報伝送方法に関する。

【0002】

【従来の技術】家庭内（宅内）に通信路（バス）を設け、コントローラや各家電機器をこの通信路に接続することにより、コントローラによる集中制御を可能にするシステムが提案されている。このシステムは、コントローラを操作するだけで、別の部屋などの離れたところにある家電機器であっても通信路に接続されれば、制御することができるものである。また、コントローラを電話回線と接続することにより、家庭外（宅外）からも制御可能となっている

【0003】上述した家庭内の通信路は、例えば、I E E E 1 3 9 4 に準拠した伝送路を用いて構築可能である。I E E E 1 3 9 4 ではA V 機器等を制御するのに適したA V C コマンドや種々の電子機器を制御するための独自のコマンドセットの仕様を決めており、P C （パソコン・コンピュータ）等のインテリジェントな機器でこのコマンドセットを備えた専用ソフトウェアを使用して、P C にI E E E 1 3 9 4 経由にて接続されている（制御端子を備えた）電子機器を制御することが行われていた。なお、ここで制御される電子機器は、外部の機器によって動作制御を行うための専用の制御端子を備えているものである。

【0004】さらに、P C 用ソフトウェアやインターネット専用端末、インターネットアクセス機能付きT V 等では、H T T P (H y p e r T e x t T r a n s f e r P r o t o c o l) プロトコルを用いてH T M L (H y p e r T e x t M a r k u p L a n g u a g e) で書かれたページデータを見る能够のWWW (W o r l d W i d e W e b) ブラウザを備えており、インターネットへのアクセス用に広く使用されている。

【0005】一方、パソコンの機能としてインターネットのWWWのブラウズ機能が広く普及しており、また、テレビ等の電子機器でもインターネットのWWWへのアクセス機能を備えたものが増えつつある。インターネット上のWWWでは、例えば、テレビの番組表等の家庭での使用において有用な情報が多く提供されている。しかし、このインターネットの情報をを利用して電子機器を制

御することを考えると、WWW上で提供されている番組表を参照してビデオの予約をする場合には、WWWブラウザで家庭の外にあるWWWサーバにアクセスして番組表などの情報を得てから、電子機器制御のための専用ソフトを使用してビデオの予約を行う、という手順が必要になる。このとき使用するWWWブラウザと電子機器制御のための専用ソフトは異なるソフトであるため操作が煩雑となる。

【0006】そこで、家庭内の各電子機器にWWWサーバ機能を内蔵する事により、パソコンやインターネットTV等のWWWブラウズ機能を持つ機器からの電子機器の制御を可能とすることにより、ユーザーはインターネットにアクセスするのと同じ操作方法（ユーザインターフェース）で家庭内の電子機器の制御をすることができるようになる。また、家庭外（宅外）からの情報に対しては家庭内（宅内）と家庭外（宅外）とのインターフェイス用にゲートウェイユニットを設置することによりアクセスを可能にし、家庭外（宅外）の情報と家庭内（宅内）の情報とを同じ操作方法で扱うことを可能とする電子機器及びその制御方法が、例えば、特開平10-191463号公報に開示されている。

【0007】

【発明が解決しようとする課題】特開平10-191463号公報に開示されている電子機器及びその制御方法は、家庭内（宅内）ネットワークに接続された機器（家庭電機器等）の操作を家庭内で行うためのもとで、家庭外（宅外）から家庭内（宅内）の機器を具体的に制御することに関しての開示はなく、ユーザが家庭外（宅外）でも家庭内（宅内）にいるのと同様な操作環境を実現することが望まれていた。本発明は、携帯型端末装置に家庭内機器を制御する機能だけでなく、家庭内機器に蓄積されたコンテンツ情報を閲覧する機能を附加することにより、ユーザが家庭外でも家庭内にいるのと同様な操作環境を提供することを目的とする。

【0008】

【課題を解決するための手段】上記の目的を達成するために、本発明は、宅内ネットワークと、前記宅内ネットワークに接続され、前記宅内ネットワークを介して伝送される制御データに基づいて遠隔制御される被制御機器と、前記宅内ネットワークとインターネットとを接続する接続部、外部から供給されるデータを前記宅内ネットワークへ中継出力する中継部、および無線データ通信路を経由してデータ通信を行う第1の宅内ネットワーク接続部を少なくとも備えたゲートウェイ装置と、前記第1の宅内ネットワーク接続部と無線データ通信を行う第2の宅内ネットワーク接続部を有し、前記第1の宅内ネットワーク接続部と前記第2の宅内ネットワーク接続部との間で前記

データ通信が確立されない状態では前記インターネットを経由して、前記被制御機器を制御するための制御データを送出する制御データ送出機能および前記ゲートウェイ装置より送出されるHTMLデータを閲覧する閲覧機能を有する携帯型端末装置とから構成されたことを特徴とする制御情報システムを提供する。上記の目的を達成するために、本発明は、宅内ネットワークを介して相互接続された被制御機器及びゲートウェイ装置と携帯型端末装置との間での制御情報伝送方法であって、前記ゲートウェイ装置と前記携帯型端末装置との間で前記データ通信が確立される状態では無線データ通信路を経由して、前記ゲートウェイ装置と前記携帯型端末装置との間で前記データ通信が確立されない位置ではインターネットを経由して、前記被制御機器を制御するための制御データを送出すると共に、前記ゲートウェイ装置より送出されるHTMLデータを閲覧することを特徴とする制御情報伝送方法を提供する。

【0009】

【発明の実施形態】図1は本発明の実施例の構成を示す図である。宅内1には、例えば、IEEE1394やイーサネット（登録商標）等で構築された宅内ネットワーク2が敷設され、宅内ネットワーク2にテレビ3や記録再生装置4が接続されている。放送局5はMPEG等のエンコード方法によりデジタル化されたコンテンツデータ（映像信号や音声信号など）を番組として放送し、宅内1では放送された番組をゲートウェイ装置6にて受信し、宅内ネットワーク2に伝送可能な所定のデータフォーマットに変換して宅内ネットワーク2に出力する用に中継動作を行う。テレビ3、記録再生装置4、ゲートウェイ装置6はそれぞれ所定のアドレスが決められている、一例としては、インターネットで使用されているIPアドレスの中のプライベートアドレスを使用することができる。

【0010】宅内ネットワーク2には、例えば、MPEG等により画像圧縮されたデジタル映像信号等が伝送され、テレビ3には、宅内ネットワーク2から供給される信号をデコードする機能を備えており、デコードされた映像信号や音声信号等の視聴が可能となっている。また、記録再生装置4は、例えば、MPEGのストリーム記録が可能な装置を使用すれば、宅内ネットワーク2から供給されるMPEGストリームデータの記録が可能である。記録再生装置4はデジタルVTR等の磁気テープを記録媒体として使用した記録再生装置や、ハードディスクドライブやDVD-RW等の磁気ディスク／光ディスク／光磁気ディスクを記録媒体として使用した記録再生装置等が接続可能である。

【0011】また、テレビ3と記録再生装置4とは必ずしも別々である必要はなく、一体構成でもよく、また、PC（パソコン）などに所定のハードウェアとソフトウェアとを組み込んで使用することも可能である。テレビ

3や記録再生装置4等の機器内には動作制御のための制御コードを含むH T M Lデータを送出するWWWサーバ機能、およびH T M LデータにアクセスするWWWブラウザ機能の少なくとも一方の機能もしくは両方の機能を搭載させておく、例えば、記録再生装置4であれば、WWWサーバ機能を搭載しておき記録再生装置の状態や設定に関する画面をH T M Lデータとして送出する、具体的には、録画予約に関する画面であれば、日付、時間、チャンネル等の録画予約設定時に必要となる設定情報の入力がしやすくなる画面データをH T M Lデータとして送出することで、他のWWWブラウザでこの画面を見ることが可能になり、また、現在の動作状態を表示したり、あるいは、再生した静止画や動画を所定形式のデータとして送出することでWWWブラウザで機器の状態に関する画像やコンテンツの画像を表示することができる。

【0012】また、テレビ3であれば、少なくともWWWブラウザ機能を搭載しておけば、上述した予約録画、機器の状態、コンテンツ等を確認閲覧することができると共に、宅内ネットワーク2及びゲートウェイ装置6を介してインターネット7に接続して外部のサーバから送出される各種のデータをWWWブラウザ機能を用いて同一のユーザインターフェースで閲覧することができる。さらに、宅内ネットワーク2に接続されたテレビ3や記録再生装置4を制御するコマンドを送出することにより、これらの機器の動作制御を実行することが可能となる。

【0013】図2はゲートウェイ装置6の構成を示す図である。ゲートウェイ装置6はインターネット7への接続機能であるインターネット接続部61を有し、これにより例えば、C A T V回線などを通じてインターネット7に常時接続されている。また、放送局5からインターネット7に対して供給されている番組情報を定期的に取得して番組情報蓄積部62に蓄積する。あるいは、放送局5からデジタル放送の一部として番組情報が供給されている場合には放送受信部63で受信した放送データから番組情報を抽出して番組情報蓄積部62に蓄積する事も可能である。番組情報蓄積部62にはインターネット61や放送受信部63経由で伝送された番組などのコンテンツデータを蓄積することも可能である。蓄積された番組情報やコンテンツデータは宅内ネットワークインターフェース(I/F)部64にて宅内ネットワーク2で伝送し、WWWブラウザで閲覧が可能な形式のデータに変換されて中継出力される。宅内ネットワークインターフェース部64は携帯型端末装置8と無線データ通信を行うための宅内ネットワーク接続部65を含んで構成されている。後述する携帯型端末装置8が宅内ネットワーク接続部65と、例えば、B l u e t o o t hなどの無線で接続されることにより、宅内ネットワーク2に接続されているテレビ3や記録再生装置4の制御が可能とな

り、また、記録再生装置4や番組情報蓄積部62に蓄積された番組情報やコンテンツの閲覧を可能とする。

【0014】図3は携帯型端末装置8の構成を示している。携帯型端末装置8は、例えば、B l u e t o o t hなどの無線通信による宅内ネットワーク2への接続機能である宅内ネットワーク接続部88、インターネット7への接続機能であるインターネット接続部81、WWWブラウザ機能82、および家電機器制御プログラム83を内蔵している。

【0015】携帯型端末装置8は宅内1の内外でゲートウェイ装置6を介して宅内ネットワーク2に接続可能である。宅内1にて携帯型端末装置8を使用している場合は、宅内ネットワーク接続部が、B l u e t o o t hなどの無線伝送でゲートウェイ装置6とやりとりを行い、このやりとりが成立している状態を宅内1にて携帯型端末装置が使用されている状態と携帯型端末装置8は認識して、携帯型端末装置8は、宅内ネットワーク接続部88とゲートウェイ装置6との間で双方向のデータ電送を確立する。このやりとりの中には携帯型端末装置8の端末I D89をゲートウェイ装置6に送信してゲートウェイ装置6か予め登録してある端末I Dと比較して認証を行う手続きを含めることで、不正な携帯型端末装置による操作や閲覧を防止してセキュリティ性を向上させることができる。

【0016】この状態で、携帯型端末装置8の家電機器制御プログラムを使用して宅内ネットワーク2に接続されているテレビ3や記録再生装置4の被制御機器の操作を行うための制御コマンドを送出することが可能である。この際には上述したように被制御機器に内蔵されているWWWサーバ機能より送出される操作に関わる画面データ(H T M Lデータ)を携帯型端末装置8のWWWブラウザ82にて表示しながら操作することにより、被制御機器から離れた、例えば、隣の部屋などにいても、被制御機器の前で操作している状態と同じ操作状態を実現することが可能となる。また、WWWブラウザ82に、例えば、記録再生装置4にて再生されているコンテンツデータを表示することにより、再生・巻戻し、早送り、一時停止などを実行することも可能となる。記録媒体の頭出しや巻戻などが被制御機器から離れた状態であっても可能となる。

【0017】また、ゲートウェイ装置6内部に蓄積された番組情報やコンテンツデータを閲覧する事が同様に可能である。さらに、携帯型端末装置8内部の家電機器制御プログラム83によって宅内ネットワーク2上に制御コマンド(制御データ)を出し、宅内ネットワーク2に接続されたテレビ3やビデオ4などの家電機器の操作也可能である。

【0018】なお、家電機器制御プログラム83は携帯型端末装置8に最初から内蔵されている以外に、例えば、被制御機器がWWWサーバを内蔵している場合は、被制

御機器用の制御データとしてH T M Lデータ、J A V Aのプログラム等をダウンロード形式で携帯型端末装置8に取り込むことも可能である。

【0019】家電機器制御プログラム83を内蔵している携帯型端末装置8にダウンロード形式での取り込み機能を搭載しておくことも可能であり、このような構成にしておくことで、家電機器制御プログラム83で制御することができない被制御機器をダウンロードした制御データで制御することが可能となる。

【0020】上述した構成により、ユーザーは番組情報を閲覧しながらテレビ3を操作し、所望の番組を視聴する、あるいは番組情報を閲覧しながらビデオ4を操作し、録画の操作を行うなどが同一の携帯端末装置8の操作で行う事が可能になる。このように宅内1においては、被制御機器から離れた位置であっても被制御機器の遠隔操作やコンテンツの閲覧が可能となる。例えば、携帯型端末装置8を防水構造としておけば、携帯端末を浴室に持ち込んでコンテンツを閲覧することも可能となる。

【0021】以下に、被制御機器のWWWサーバよりダウンロード形式で制御データを携帯型端末装置8に取り込んで、記録再生装置4を操作する場合の具体例について説明する。図5はこの時の携帯型端末装置8の表示画面であり、図6は携帯型端末装置8と記録再生装置4との間のデータの送受信内容を示す図である。なお、図6は説明を簡略化するために宅内ネットワーク2およびゲートウェイ装置6を簡略化して示してある。

【0022】まず、携帯型端末装置8のWWWブラウザ82から所定のアドレスを指定して記録再生装置4にアクセスすると、図5に示すような画面が表示される。すなわち、WWWブラウザ82が記録再生装置4内にあるWWWサーバ機能41に対してリクエスト(ページデータの要求)を発行すると、記録再生装置4内のWWWサーバ41はこのリクエストに対して記録再生装置4を制御するためのH T M Lで書かれたページデータを出し、携帯型端末装置8の画面に表示する。

【0023】図5に示す画面では、操作する対象が記録再生装置4であることを示す操作対象の表示100、記録再生装置4の入力または再生画像を表示するモニタ画像101、録画、再生、早送り等の記録再生装置4の動作制御を行う操作ボタン群102、録画予約を行うための録画予約画面に移行する録画予約ボタン103、各種設定画面に移行する設定ボタン104、カウンタ105等が表示されている。そして、この各種ボタン102～104をマウスまたはやりモコンなどで指定することにより、記録再生装置4を直接操作するのと同様の感覚で操作することができる。

【0024】図5では、モニタ画像101に現在記録再生装置4が output している画像を表示し、その下に記録再生装置4を制御する操作ボタン群102、103、10

4を表示している。そして、WWWサーバとなる記録再生装置4から、例えば、G I FまたはJ P E Gで圧縮された静止画を連続的に送信する方法を用いて擬似的な動画をモニタ画像101に表示している。なお、宅内ネットワーク2上でH T T P以外の手順による動画伝送の方法がサポートされている場合や宅内ネットワーク2と並行して通常のビデオケーブルで機器間の動画の伝送が可能な場合には、記録再生装置4での動画をそのまま表示することが可能になるので、図7に示すように、記録再生装置4からの動画を画面全体に表示し、他の情報をブラウザ画面120として動画上にスーパーインポーズ表示したりすることで、より操作性のよいシステムとすることができる。

【0025】そして、操作ボタン群102、103、104に対して携帯型端末装置8のWWWブラウザ82を使用しているユーザがマウス等の入力手段を用いて操作を行うと、図8に示すように、このユーザが行った操作内容は記録再生装置4のWWWサーバ41に送出される。記録再生装置4のWWWサーバ41は、ユーザが行った操作を受け取り、この操作内容を実行するために記録再生装置4のメカニズムを制御する。そして、操作を行った結果を携帯型端末装置8に返信して、画面に表示させる。

【0026】ここで、ユーザの操作内容を記録再生装置4のWWWサーバ41に伝える方法としては、H T T PのP O S Tメソッド(データを渡す)等を用いるが、この場合P O S Tの結果として記録再生装置4のWWWサーバ41から携帯型端末装置8のWWWブラウザ82に対して新たなページデータが送出されるので、WWWブラウザ82の画面全体が再描画される。なお、この再描画を回避し、さらにより高度なユーザとのインターフェーションを実現するために、WWWブラウザ82上で実行可能なJ a v a等によるプログラムをあらかじめページデータの中に組み込んでおき、これによりユーザの操作をWWWサーバ41に伝える様にしても良い。

【0027】次に、携帯型端末装置8から記録再生装置4の録画予約を行う場合について説明する。図5または図7に示した操作画面において、録画予約ボタン103を選択すると図9に示すような画面が携帯型端末装置8に表示される。そして、この画面により、記録再生装置4の予約操作を行うことができる。図9は、記録再生装置4の録画予約を行うための画面であり、画面上部に記録再生装置4の予約画面であることを示すタイトル表示106があり、その下に、既に行われている予約の一覧107が表示されている。また、下部には新規に予約を入力するためのフィールド108が表示されており、このフィールド108に録画開始の日付、録画開始時刻及び終了時刻、録画チャンネルを入力し、新規予約のボタン109を選択することにより、新たな予約を追加することができる。

【0028】そして、既に行われている予約の一覧107の左端には、各予約毎（それぞれの行）にラジオボタン110があり、ユーザは不要になった予約内容が表示されている行のラジオボタン110を選択した後、予約解除のボタン111を選択することによりその予約を削除することができる。

【0029】また、予約の一覧107の表示をゲートウェイ装置6に蓄積されている番組情報を表示する用に構成すれば、番組表等の番組情報を参照しながら録画予約をすることが可能となり、操作性はさらに改善される。

【0030】さらに、記録再生装置4内のWWWサーバ41の構成例を図10に示す。図10に示すWWWサーバ41は、WWWブラウザとの通信を行うネットワークインターフェース61と、ネットワークインターフェース61に接続され、WWWブラウザからのリクエストを受け付けて、HTM Lで書かれたページデータを送出するHTTP処理部62と、WWWブラウザ82で記録再生装置4の制御を行うためのページデータの内容を保持しているページデータ蓄積部63と、WWWブラウザ経由でユーザが記録再生装置4の操作を行った場合に、その操作を受け付けて実際に記録再生装置4のハードウェア66を制御する記録再生装置操作受付部64と、記録再生装置ハードウェア66から供給される画像データをキャプチャー（一時的に蓄積）し、GIF/JPEG等の静止画データに変換して、HTTP処理部62に出力するTV画像エンコーダ65と、録画予約を行う予約受付部67と、予約された内容を保持する予約データベース68と、録画予約設定中にページデータを作成するページデータ生成部69とで構成されている。

【0031】そして、このような構成のWWWサーバ41において、携帯型端末装置8のWWWブラウザ82からのリクエストをネットワークインターフェース61が受け付けると、そのリクエストをHTTP処理部62に渡す。HTTP処理部62では、リクエストの内容により、ページデータ蓄積部63からページデータを受け取ると共に、画像エンコーダ65から静止画データを受け取ってページデータの中に組み込み、ネットワークインターフェース61に出力する。そして、ネットワークインターフェース61はリクエストのあった携帯型端末装置8のWWWブラウザ82に図5または図7に示すようなページデータを出力している。

【0032】また、WWWブラウザ82側で記録再生装置4の操作が行われた場合には、その操作内容がネットワークインターフェース61を介してHTTP処理部62に供給され、操作要求として記録再生装置操作受付部64に出力される。記録再生装置操作受付部64では記録再生装置ハードウェア66に対して操作要求された内容の操作を行い、その結果をHTTP処理部62に出力する。そして、その処理結果は、ネットワークインターフェース61を介してWWWブラウザ82側に出力される。

さらに、図5または図7がWWWブラウザ側の画面に表示されている状態で、録画予約ボタン103が選択されると、その内容は、ネットワークインターフェース61を介してHTTP処理部62に供給され、ページデータ生成部69に出力される。ページデータ生成部69では、予約データベース68を参照して、現在の予約内容を示す図9に示したようなページデータを生成して、HTTP処理部62に送出する。そして、ネットワークインターフェース61を介してWWWブラウザ82側に出力される。

【0033】その後、図9に示す画面で予約フィールド108に日時・チャンネルが記入され、新規予約ボタン109が選択された場合には、その内容が、ネットワークインターフェース61を介してHTTP処理部62に供給され、予約受付部67に出力される。予約受付部67では、その内容を予約データベース68に書き込み、予約データベースを更新する。なお、予約内容を削除する場合も同様にして行う。そして、データベースの更新が終了してHTTP処理部62にその情報を出力すると、HTTP処理部62は、ページデータ生成部69に新たな予約内容を示すページデータを要求する。ページデータ生成部69では、予約データベース68を参照して、新たな予約内容を示すページデータを生成して、HTTP処理部62に送出する。そして、ネットワークインターフェース61を介してWWWブラウザ82側に出力する。

【0034】以上説明したように、インターネットに接続して家庭外のホームページを見る感覚で、家庭内にある他の電子機器の制御を行うことができるので、誰でも簡単に操作することができる。また、家庭外のホームページによる情報を利用した操作も簡単に行うことができる。そして、2台の記録再生装置等同じ種類の電子機器が複数接続された場合でも、それぞれの電子機器が接続されているアドレスが異なるので、個別に操作することができる。

【0035】さらに、被制御機器である電子機器が増加してもアドレスが増えるだけなので、簡単に対応することができる。そして、将来、新規な機能を持つ電子機器が接続された場合でも、新規な機能に関する情報は新規に追加される電子機器に内蔵されているWWWサーバから他の電子機器にページデータとして供給されるので、現在接続されているWWWブラウザ機能を有する電子機器、例えば、携帯型端末装置8から操作することが可能となる。

【0036】また、これらの操作はインターネット接続部81を利用してインターネット7経由でゲートウェイ装置6に接続して行う事もできる。この場合には携帯端末装置8は宅内ネットワーク2に接続されている必要はなく、屋外に持ち出した状態でも使用可能である。携帯型端末装置8は宅内1より外にでたことを、例えば、上

述したゲートウェイ装置6とのやりとりが途絶えたことを検出して、ゲートウェイ装置6との接続をインターネット経由の接続に変更する。インターネット7経由の接続には、PDC84による回線交換接続とModem処理部85、PPP処理部86、TCP/IP処理部87によってISP(Internet Service Provider)に接続し、TCP/IPプロトコルによって宅内のゲートウェイ装置6への通信路が確立される。また、インターネット7への接続が行われた状態で、携帯情報端末8内部のWWWブラウザ機能81を使用するとインターネット7内のWWWの閲覧が可能である。宅外でのWWW閲覧はインターネット7の普及と共にユーザーの要求が高まっているが、携帯型端末装置8を使用する事により、同じく要求の高い宅内、宅外からの家電機器操作を同一の携帯端末装置8の操作で行う事ができるようになる。

【0037】次に図4では、携帯型端末装置8を本来自分が属する宅内ネットワーク2以外の場所の宅内ネットワーク200に接続した場合の状態を示している。図3に示すように携帯型端末装置8の宅内ネットワーク接続部88は無線通信により、近傍の宅内ネットワーク(図1の2あるいは図4の200)の存在、すなわちゲートウェイ装置(図1の6あるいは図4の600)の存在を常に監視しており、もし、見つかった場合は宅内ネットワーク(図1の2あるいは図4の200)への接続要求を出す。ゲートウェイ装置(図1の6あるいは図4の600)は携帯型端末装置8からの接続要求を受け、端末の認証を行う。端末は内部にIDコード89を持っており、端末認証にあたっては、IDコード89とゲートウェイ装置(図1の6あるいは図4の600)の内部に蓄積されているIDテーブルと比較して一致するかどうかで行われる。ここで、端末ID89とゲートウェイ装置の内部に蓄積されているIDテーブルの項目と一致した場合は、携帯型端末装置8はこの宅内ネットワーク(図1の2あるいは図4の200)のメンバーであると認証され、ゲートウェイ装置(図1の6あるいは図4の600)を経由した番組情報の閲覧機能や、機器制御機能などの全ての機能を携帯型端末装置8から使用可能になる。しかし、認証に失敗した場合は、携帯型端末装置8は本来の宅内ネットワーク(図1の2あるいは図4の200)のメンバーではなくゲストとして接続され、ゲートウェイ装置(図1の6あるいは図4の600)は自分を経由する機能の内あらかじめ定められた機能のみを使用可能とする。例えば、図4の例では、番組情報を閲覧する事はできるが、宅内の各種機器の制御は許可しない。

【0038】このようにメンバーかゲストに応じて機能に制限することに、ユーザーが携帯型端末装置8を持って他の場所を訪問した場合でも、必要なサービスを提供すると共に、宅内の各種設定の変更などの重要なサービスに関するセキュリティを確保する事ができる。この機

能は、通常の家庭でのサービスだけではなく、各種施設での案内サービスなどへの応用も可能である。

【0039】

【発明の効果】上述したように本発明は、宅内においても宅外においても、宅内ネットワークに接続された被制御機器の操作制御を可能と共に、被制御機器やゲートウェイ装置に蓄積された番組情報やコンテンツ情報等を閲覧する事が可能であるので、宅外にあっても宅内にいるときと同じ操作環境を実現して、きわめて操作性がよいという利点を有する。

【0040】

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明の実施例の構成を示す図である。

【図2】 ゲートウェイ装置の一例を示す図である。

【図3】 携帯型端末装置の一例を示す図である。

【図4】 他の宅内ネットワークでの使用例を示す図である。

【図5】 携帯型端末装置から記録再生装置を制御する場合の画面表示例を示す図である。

【図6】 携帯型端末装置から記録再生装置を制御する場合を説明する図である。

【図7】 携帯型端末装置から記録再生装置を制御する場合の画面表示例を示す図である。

【図8】 携帯型端末装置から記録再生装置を制御する場合を説明する図である。

【図9】 携帯型端末装置から録画予約を行う場合の画面表示例を示す図である。

【図10】 記録再生装置に内蔵されるWWWサーバの一例を示す図である。

【符号の説明】

1・・・宅内

2・・・光ピックアップ

3・・・テレビ

4・・・ビデオ

5・・・放送局

6・・・ゲートウェイ装置

7・・・インターネット

8・・・携帯型端末装置

61・・・インターネット接続部

62・・・番組情報蓄積部

63・・・放送受信部

64・・・宅内ネットワークインターフェース(I/F)部

65・・・宅内ネットワーク接続部

81・・・インターネット接続部

82・・・WWWブラウザ

83・・・家電制御機器プログラム

84・・・PDC

85・・・Modem処理部

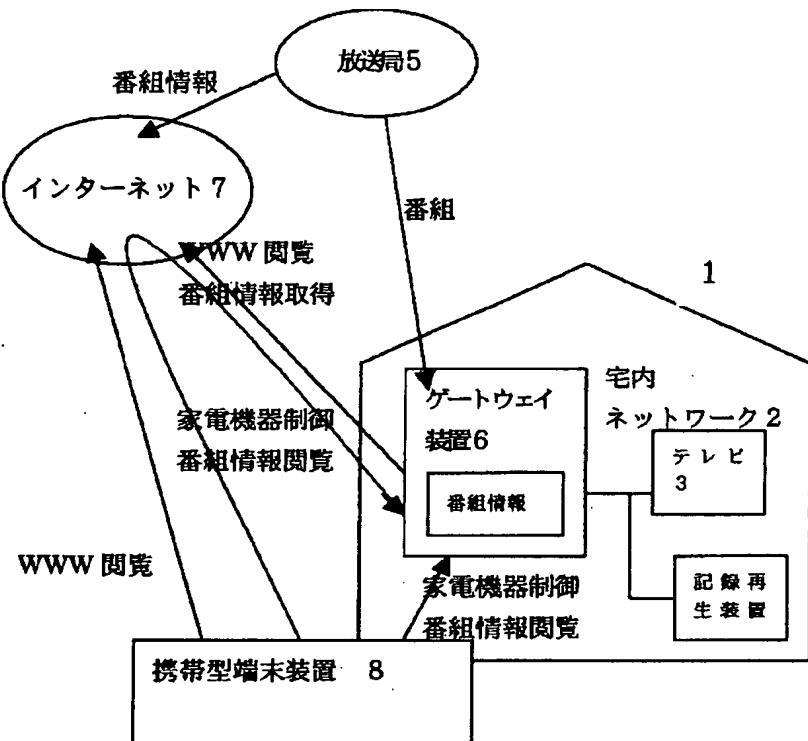
86・・・PPP処理部

87 . . . TCP/IP処理部
88 . . . 宅内ネットワーク接続部

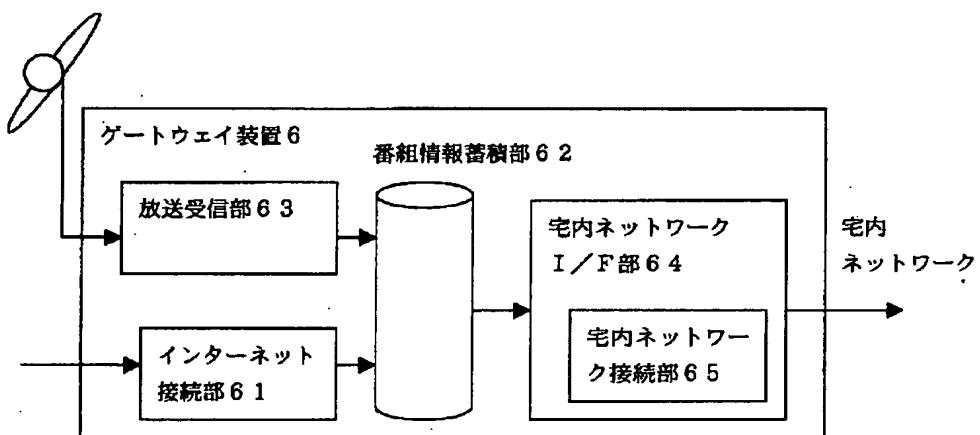
89 . . . 端末 I D

88 宅内ネットワーク接続部

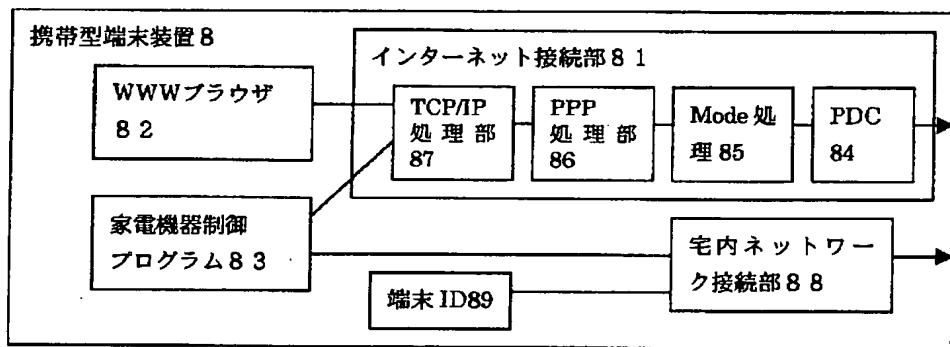
【图1】



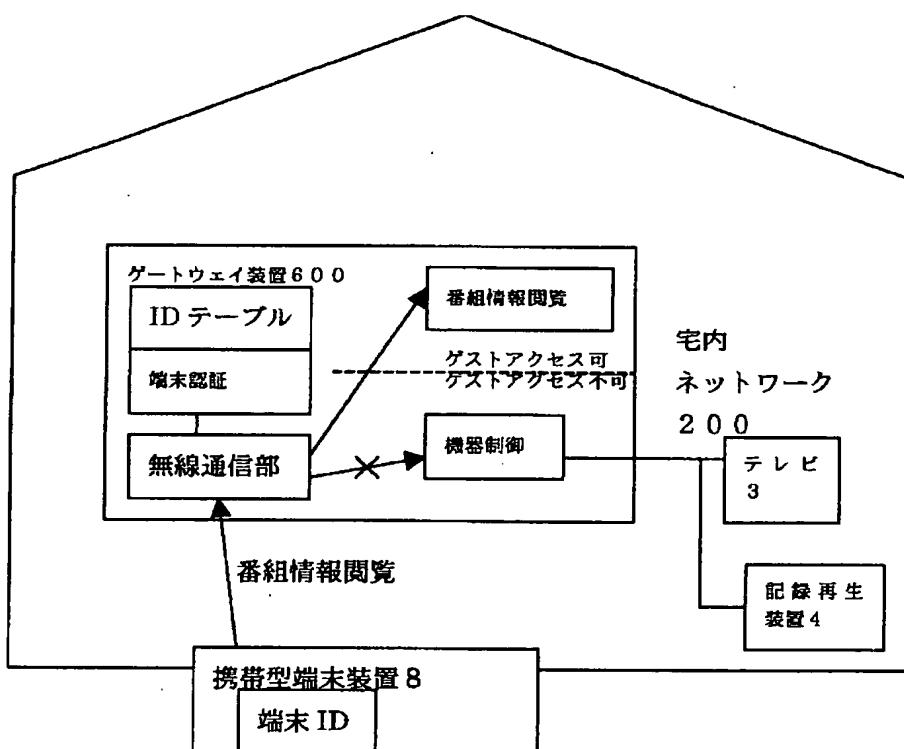
【图2】



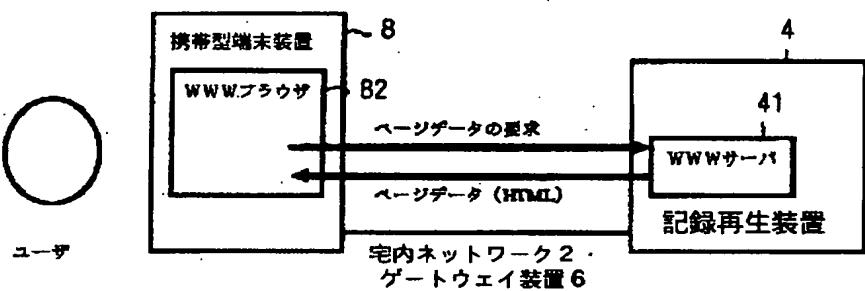
【図3】



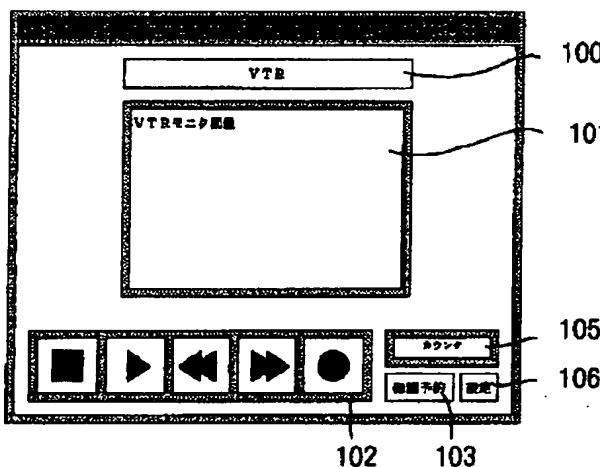
【図4】



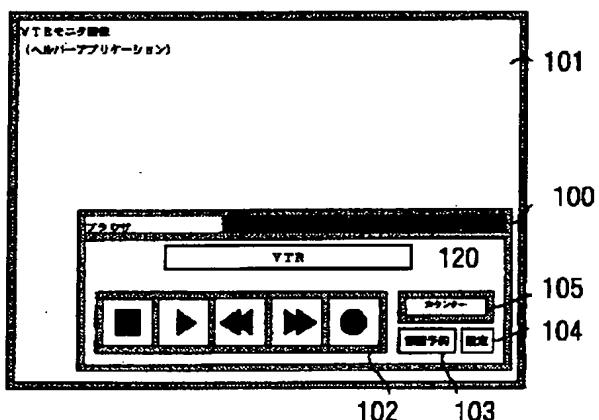
【図6】



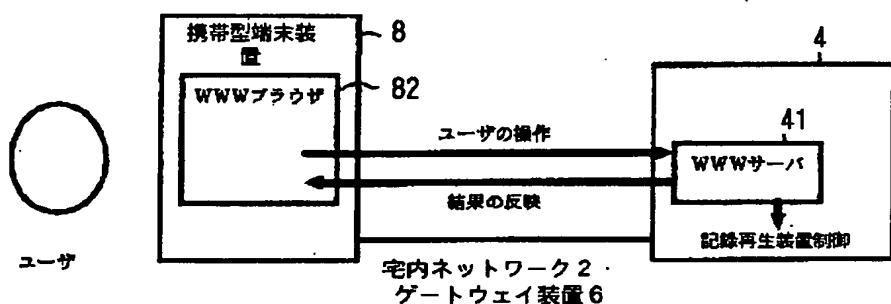
【図5】



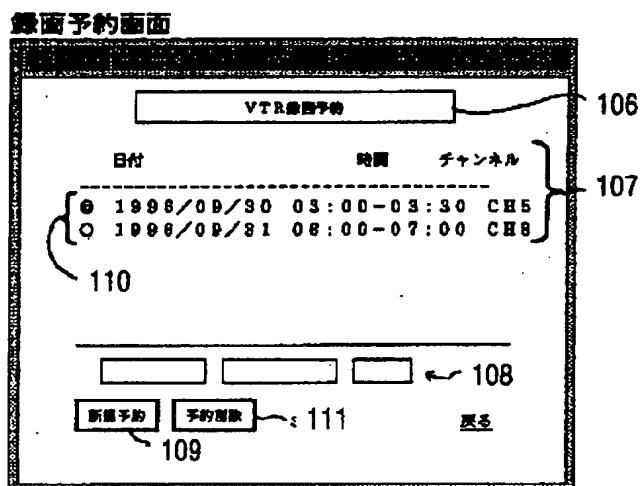
【図7】



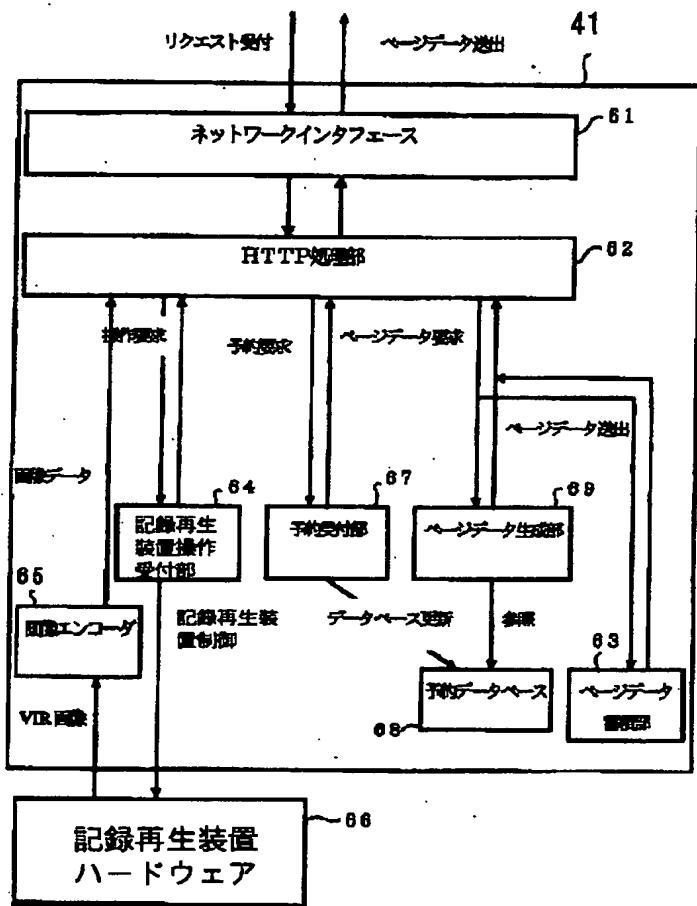
【図8】



【図9】



【図10】



フロントページの続き

F ターム(参考) 5B089 GA11 GA25 GA31 GB04 HA10
 HA11 HA18 HB02 HB03 HB05
 JB02 JB05 JB07 LB14
 5K033 AA09 BA01 BA08 CB02 DA06
 DA19 DB10 DB12 DB18 EA07
 EC03
 5K048 AA04 BA12 BA13 CA08 DA02
 DB01 DC01 DC04 DC07 EA11
 EB01 EB02 EB03 FB08 FC01
 HA01 HA02 HA05 HA07 HA13
 HA22 HA23